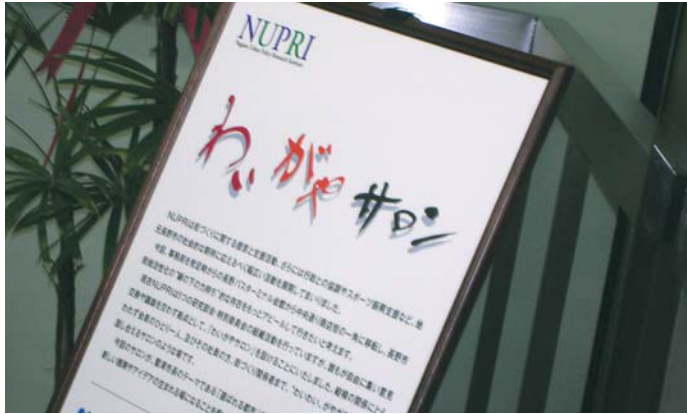




第1回 大河ドラマ「風林火山」をめぐって 平成18年9月19日  
講師／佐倉一徳さん NHK長野放送局企画総務部副部長  
樋口 博さん 長野市産業振興部観光課課長

第2回 もっと楽しくて、元気な街づくりを 平成18年10月23日  
講師／久米えみさん ながのクラッセ会長  
樋口敦子さん ながのまちづくりカフェメンバー

第3回 スポーツによる街づくりを 平成18年11月21日  
講師／鷺沢幸一さん アスレながの事務局長  
室賀 豊さん 長野市アイスホッケー協会理事

第4回 写真で見る長野の街並み 平成19年1月23日  
講師／清水隆史さん フォトグラファーほか  
常盤昭二さん CMディレクター

第5回 健康と美容を保つために 平成19年3月22日  
講師／虎羽里(トラバリ)ゼーラさん アーユルヴェーダ・健康セラピスト

第6回 環境と街づくり ばていお大門・TOiGOの設計に参画して 平成19年4月23日  
講師／竜野泰一さん 株式会社エーシーエ設計 取締役副社長〔一級建築士〕

第7回 信濃グランセローズの挑戦 平成19年5月21日  
講師／木田 勇さん 信濃グランセローズ監督

第8回 スポーツマンシップの大切さ 平成19年8月29日  
講師／荻原健司さん 参議院議員・五輪金メダリスト

第9回 トウガラシの尽きせぬ魅力／「農」による地域活性を探る 平成19年10月24日  
講師／松島憲一さん 信州大学大学院農学研究科 准教授

第10回 命のバトンを渡す「ピオトーブ」／長野市をピオトーブネットワークシティに 平成19年11月14日  
講師／松岡保正さん 国立長野工業高等専門学校 環境都市工学科教授

第11回 簡単・おいしい・オシャレ／わたしのレシピができるまで 平成20年3月26日  
講師／浜このみさん クッキング・コーディネーター

第12回 あなたのからだは「築何年」ですか？ 平成20年7月14日  
講師／角本浩二さん バランスアドバイザー 長野県健康管理士会会長

第13回 アメリカ生活で感じたあれこれー変化に対して前向きになることの大切さー 平成20年8月19日  
講師／針谷友久さん 東京中小企業投資育成株式会社 主任(長野県担当)

第14回 市役所第一庁舎及び長野市民会館の在り方を考える 平成20年9月16日  
講師／水野守也さん 長野市総務部次長 兼庶務課長

第15回 長野バルセイロ ---- 優勝報告&JFL昇格への挑戦 平成20年10月29日  
講師／バドゥ・ピエイラ監督、薩川了洋コーチ、貞富信宏キャプテン

第16回 農業再生とブランド化 平成20年12月3日  
講師／町田良夫さん 社団法人長野市農業公社 常務理事

第17回 地上の楽園は馬の背にあり 平成21年2月18日  
講師／中山 修さん 中山法律事務所 弁護士

第18回 循環備蓄型の農業の実践 --- 宇宙のリズムにあった農業で一次産業の再生を試みる --- 平成21年6月3日  
講師／塩澤研一さん (財)いのちの森文化財団副理事長 (株)水輪ナチュラルファーム代表取締役

第19回 郷土を包む「おやき」 平成21年7月14日  
講師／小出陽子さん (同)ふきっ子のお八起 代表／信州おやきブランド化委員会 研究会リーダー

第20回 信州の伝統から生まれる食文化 ―漬物の新しい風― 平成21年9月2日  
講師／宮城恵美子さん (有)宮城商店専務取締役／木の花屋

第21回 飯綱高原を、もっと住みよく、おもしろく！ 平成21年11月24日  
講師／志村雅由さん NPO法人 飯綱高原よっこらしょ／代表理事

第22回 JFL昇格に向けて 平成22年3月17日  
講師／薩川了洋さん AC長野パルセイロ新監督

第23回 先人の知恵を受け継ぐ〜トチの実、雑穀、あんぼ〜 平成22年5月25日  
講師／石沢一男さん (有)田舎工房 代表取締役

第24回 3度目でつかんだオリンピック出場 平成22年7月28日  
講師／新谷志保美さん バンクーバーオリンピック代表 (株)竹村製作所 勤務

第25回 逃げないスケルトン 〜夢と感動と勇気を〜 平成22年9月15日  
講師／越 和宏さん スケルトン競技3大会オリンピック日本代表 (株)システックス所属

第26回 Go to J 〜"J"を長野に--- いよいよ地域決勝大会!〜 平成22年10月25日  
講師／鈴木政一さん 長野パルセイロ・アスレチッククラブ強化本部長

第27回 グランドデザインの視点で「信州の食」を考える 平成22年11月30日  
講師／千村尚司さん 千村ブレイン代表・ソムリエ

第28回 ご利益のある町づくり 平成23年1月26日  
講師／川崎史郎さん フリーライター・市民記者ネット代表

第29回 防災と危機管理 平成23年6月1日  
講師／安藤長一さん 篠ノ井消防署署長、緊急消防援助隊長長野県隊長(第二次派遣隊)

第30回 江戸のエコロジスト 一茶 平成23年8月30日  
講師／マブソン青眼さん 俳人・比較文学者

第31回 Waを生かしたまちづくり 長野はもっと元気になる 平成23年9月28日  
講師／井上裕子さん 信濃毎日新聞社編集局地域活動部長・編集委員

第32回 メディアから見た長野 平成23年10月19日  
講師／田幸淳男さん 信越放送取締役相談役

第33回 旅の楽しさと長野の魅力で世界をむすぶ 平成24年1月31日  
講師／飯室織絵さん 観光客向けゲストハウス「1166バックパッカーズ」運営

第34回 神輿で街の元気を呼び覚ませ 平成24年2月28日  
講師／相原 哲さん ながの町神輿連合会武睦会 会頭

第35回 長野とオリンピックレガシー 平成24年3月26日  
講師／小林 亨さん 日本オリンピック委員会(JOC)勤務

第36回 すべてがー丸となつてゝながのの宝もの。をJへ 平成24年4月24日  
講師／薩川 了洋さん AC長野パルセイロ監督



**NUPRI**  
Nagano Urban Policy Research Institute  
NPO法人 長野都市経営研究所

〒380-0834長野市大字鶴賀問御所町1289-1丸本ビル2F  
TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166  
www.nupri.or.jp  
e-mail:nupri@nupri.or.jp

わいがや  
サロン

通信

Vol. 37  
2012.9



水辺の宝石・カワセミ。  
「チツ、チツ、チー」  
「ビビビッビビイー」と鳴く

**NUPRI**  
Nagano Urban Policy Research Institute  
NPO法人 長野都市経営研究所



## 第37回 信州の野鳥たち

平成24年8月31日(金) 18:00～20:00

講師／小宮山義光さん

日本野鳥の会長野支部会員

■座長 岩野 彰

場所／NUPRI事務所 TEL.026-235-7911



こみやま よしみつ 1966年長野市生まれ。曹洞宗長福寺副住職。日本野鳥の会会員。2012年1月、日本野鳥の会長野支部50周年を記念した刊行物『信州の野鳥』を支部会員らと執筆、写真提供。「お釈迦様が出家するきっかけになったのは、虫を食べる小鳥が大鳥に食べられるのを見て、世の無常と輪廻を感じたから」といわれ、鳥と仏教との関係は深いです」

と親しんだのが野鳥や自然保護に目覚めたきっかけだそうです。その後、文学活動に励み、千歳鳥山（東京都世田谷）で鳥を放し飼いでいる暮らしぶりが鳥類学者や文学者の目に留まって、1934年（昭和9）請われて富士山裾野の須走で野鳥観察会を開きます。詩人の北原白秋ら文人、華族など34人が参加。これが野鳥、探鳥会という言葉を使い出した始まりで、それからまもなく日本野鳥の会を発足させました。

日本野鳥の会は徐々に各地に支部が設立され、1944年には会員数はおよそ1800名に。現在は各都道府県に計90の支部があり、会員・サポーターは5万1千人。私が所属している日本野鳥の会長野支部は今年創立50周年を迎え、県内外含めた会員数は500名余、毎月1～3回探鳥会を開いています。

### 千曲川でカワセミを見た！

中学生のとき、科学部野鳥班に入っていた友だちに誘われて千曲川観察会に参加し、村山橋付近で見た鳥がカワセミ（表紙イラスト）。こんな鳥がいるのか！日本にいるのか！とビックリ感動したのがきっかけとなって、野鳥の世界にのめり込みました。人間、何がきっかけになるのか分かりませんね。

野鳥は全世界に9千種、日本では550種記録され、定期的に見られるのは350種ほど。長野県内では308種が記録。昔はもっと少なかったのですが、年々観察する人が増え、2、3種ずつ増加し、思わぬところにいたという情報が寄せられます。

久しぶりのサロン開講は暑く長かった今夏の8月末日。日本野鳥の会長野支部会員の小宮山義光さんをお招きし、小宮山さんが日ごろ撮（録）りためた長野に生息する野鳥たちを紹介してもらいつつ、お話をお聞きました。

### 日本野鳥の会

日本にはたくさんの鳥がいます。今は`野鳥（やちょう）。と呼びますが、昔はただ`鳥（とり）。と呼んでいて、鳥といえば捕らえて鳥籠で飼う。あるいは捕って食べるものでした。小さい時にトリモチで捕まえたことがありますか？（会場：「あるある」「空気銃で打った」という声。）チョンチョン焼きを食べたことがある方もいるかもしれませんね。

そういう風潮にあった日本で、「野の鳥は野に」を唱え、自然環境の中で鳥を愛で、保護する運動を起こしたのが中西悟堂（1895～1984）です。悟堂は幼くして父母に別れ、天台宗僧侶の叔父・中西悟玄に育てられました。秩父山中で荒行の際、肩や膝にとまりにきた小鳥

野鳥を大きく分類すると、留鳥——スズメは留鳥に属するが、飯山の雀が移動して四国で見つかったこともある。漂鳥——ウグイスは、夏は高いところ、冬は里山におり、庭先へも。夏鳥——カッコウ、オオルリなど。11月まで長野県にいて南国へ。冬鳥——ジョウビタキなどがシベリアから渡って来ます。ツグミは昔よく食べられましたね。旅鳥——シギなど水辺の鳥に多い。田に水を張っておくと休むために降りてきます。迷鳥——大きい台風の折など、太平洋の鳥が諏訪湖に連れられて来たことがあります。

海に囲まれ、いろいろな地形がある日本にはさまざまな種類が棲んでいます。なかでも長野県は3千mを超える山、千曲川や天竜川など大小さまざまな川、諏訪湖などの湖、林野、田畑など複雑な地形に多くの野鳥が生息しています。

野鳥はその環境に応じて生きていますが、開発によって激減。日本のトキは絶滅してしまい、自然界のバランスの頂点に立つイヌワシは絶滅が危惧されています。その反面、ハシブトガラスのように増えてきた種や、キンパラ、ドバトのように生命力のある外来種が入ってきて在来種の生態が脅かされています。去年は、東日本大震災の影響によるのか冬鳥が減り、かつていなかった鳥が見られました。磁場変化により渡ってくるルートが変わったのではないかともわれています。

### 信州の美しい風景の中にいる野鳥

野鳥に知り合ってから30年余り、私が撮影録音した野鳥を四季をおって紹介します。（スライド上映）

春）梅にウグイス、ヒレンジャク……桜にメジロ（ウグイス色のため、ウグイスと勘違いされやすい）、アオバト（鳩とは思えない美しさ）……サンショウクイ（虫しか食べないのですがピリピリと鳴くため。鳥の名付け方は面白い）、ツバメ（土喰ッテ虫喰ッテ渋いと鳴く）etc.

夏）アカゲラ、アカショウビン（戸隠が有名。出会うために一か月宿泊する人も！）、……ホトギス（ウグイスの巣に一個托卵し、自分では育てない。自分の子を見たことがない！カッコウ、ジュウイチも同様本能）、……オオルリ（ウグイス、コマドリとともに日本三鳴鳥）、etc. 時間がなくなってきてしまいました。

野鳥の生態を撮るよう心がけています。もう少しで全県の鳥を網羅できますが、鳥たちは自由気まま、簡単には写真を撮らせてくれません。初心者は野鳥を見つけると突進していきますけれども絶対にやめてくださいね。人の姿を一回見たら同じ場所には戻ってきません。私は自然に溶け込むように陣取ったテント内からカメラレンズを覗いて何時間も過ごします。ときに何日も、何十回も出向いては偶然の一瞬を待つのです。

その鳥の習性や子育ての仕方を知ることが撮影するにも一番の近道です。県内各地で行っている探鳥会に参加して野鳥観察の楽しさを味わってください。

野鳥が庭先に訪れど、山で声は聴けど「いい声だな」だけで、終わってしまうのが私たち一般人。小宮山さんが写す野鳥の美しさ、採餌植物・季節を教えてくれる力量に参加者一同感嘆しました。長野にある宝物`野鳥、に今一歩興味を進めて姿・声と名前を一致させ、生態を守っていきたいものです。



日本野鳥の会長野支部50周年記念『信州の野鳥』。長野県で見られる160種の野鳥を掲載。表紙写真「オオタカ」も小宮山さんの撮影による



左が仏法僧と鳴くと誤解されていたブッボウソウ。本当は小さいミミズクであるコノハズク(右)の鳴き声だった！



チョウゲンボウ。繁殖地である中野市十三崖は国の天然記念物だが、減少している

